

第 118 回日展

第 4 科（工芸美術） 特選授賞理由

題名
早春の風

作者名
飯島賢治

授賞理由
銅板金による立体造形作品である。早春に吹き渡るリズムカルな風と自然の生命の美しさを表現し、緑青仕上げにより、木々の間を吹き抜ける風を感じるフォルムが爽やかな作品である。

題名
言の葉

作者名
石原真理

授賞理由
本友禅染による気品ある作品である。タイトルの「言の葉」から文学的な様々なイメージが湧く。単色系の色彩を重層的に扱い、タタキ糊、銀彩を効果的に使用することで内容の深い表現となっている。

題名
遷移

作者名
市場勇太

授賞理由
移りゆく日常の風景。何気ない日々の記憶の一瞬を切り取り陰影の美しい作品に昇華させている。絹地に型染のシャープな仕上りが透明な空気まで伝えてくれる。作者の視点と技法が見事に結実した秀作である。

題名
濤

作者名
井上英基

授賞理由
海が見せる静寂と荒々しさが巧みに表現されている。30 kgの土塊を一本引きのロクロ回転で、その緩急による造形は偶然でありながらも高度な技術によるものである。伝統工芸が現代、そして未来へと続く可能性を秘めた秀作である。

題名
紅紫の器「濤」

作者名
阪口浩史

授賞理由
ロクロ成型と手びねりで作られた波形のフォルムは、量感と広がりがあり、口づくりや稜線の表現も美しい。赤色の釉薬の流れも巧妙で見事である。焼き物素材の良さが伝わる秀作である。

題名
リサイタル

作者名
高橋斗雄

授賞理由
楽器のフォルムをモチーフとした艶やかな漆の立体である。有機的にデフォルメされた形態は、その楽器自体がリズムに乗って踊り出したような楽しさも伝わってくる。漆黒の滑らかな面のハーモニーが心地よい。

題名
ほどける

作者名
橋詰里織

授賞理由
乾漆による卵型の球体を繋ぎ三つ脚で立たせ、漆黒のマッスに浮遊感を出している。各々異なるフォルムが愛らしく空間に遊び、曲面に交錯する螺鈿と銀の繊細な線が全体を引き締める。加減の妙が光る作。

題名
Green Voice

作者名
平井恵子

授賞理由
植物のパッションフルーツの生長をテーマにした作品である。一本の苗からグングン伸びていく様は、まるでジャックと豆の木を想像させられる。綴織技法を駆使し、寒色系の色彩をうまくまとめた秀作である。

題名
生命の領域

作者名
藤藁 隆

授賞理由
加賀友禅の糸目技法の白く残した線描きと、ぼかしの技法とが見事にミックスされ、海の中に差し込む光の先に群れる魚の力強さと軽快なリズムが素晴らしい作品である。

題名
宙、深く

作者名
松木光治

授賞理由
銅、真鍮、銀と 3 種の金属の素材色を生かしながら、酸化によって変化と深みを与え、精緻で軽やかな表現がこの作品の魅力である。題名から「宙の深さ」を少ない金属色を巧みに作品化したところに作者の力量を感じる。